

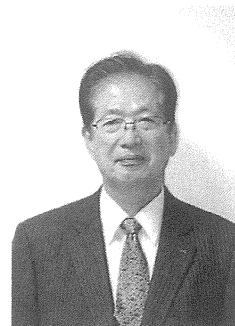
## ごあいさつ

---

日頃、皆様には本組合の事業運営に特段のご支援とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

本年も、当JAの経営内容を公開し組合員、利用者の皆様が安心してご利用頂けるよう、ディスクロージャー誌を作成致しましたので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

平成30年度は、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善により日本経済は緩やかな回復基調にありましたが、農業・農村そしてJAを取り巻く環境は依然厳しい状況が続きました。



JAグループを挙げて反対運動を展開したアメリカを除く11か国によるTPP新協定は昨年12月に発効、本年2月には日本と欧州連合の経済連携協定（EPA）が発効されるなど、国内農業・農村へのさらなる影響が懸念されます。こうしたなか、生産調整について、国による「生産数量の目標配分」が廃止され、産地主体の「生産目安」を掲げた取り組み初年度である平成30年産米については、需給に応じた生産が図られ米価は安定しました。しかし、人口減少等により今後一層需給減少が想定され、今以上に関係者が一体となり需要に応じ米生産に取り組む必要があります。

また、平成28年4月施行の改正農協法により全国農業協同組合中央会は平成31年9月末で「新たな中央会」へ移行、公認会計士監査が10月に導入されるなどJAそのものの在り方が注目される中、JAグループは地域農業と暮らしに必要とされる組織を目指して「創造的自己改革」に創意工夫のもと様々な実践に取り組んでおります。

平成30年度の事業成績であります。組合員の皆様が積極的にJA事業をご利用頂いた結果、事業利益は1億98百万円となり、当期の剰余金は51百万円、当期の未処分剰余金は5億63百万円となりました。

令和元年度は第六次中期経営計画（最終年度）と第39回JA宮城県大会の決議に基づき、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向けた取り組みを積極的に展開し、地域農業と暮らしに必要とされるJAを目指してまいりますので、より一層の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和元年7月

みやぎ仙南農業協同組合  
代表理事組合長 浅野 清